

「**子どもの学びの姿**」に照らして考える

# 道徳科研修プログラム

このプログラムは3部構成になっており、研修の目的に応じたものを選んで使うことができます。

また、1つのプログラムを分割して使うなど、研修を行う時間に合わせて柔軟に活用することができます。

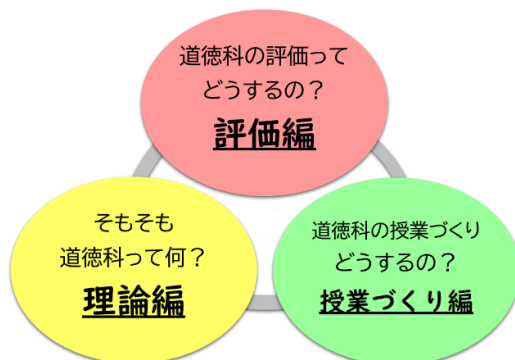
このプログラムの特色は、「**子どもの学びの姿**」に即した指導と評価を考えることです。

抽象的に書かれているねらいをそのまま捉えるのではなく、「子ども達からどのような発言やつぶやきが聞かれるだろうか」といったように、**学びの姿**をねらいに照らして具体的に描くことを大切にしています。

ポイントとなるところには、右のマークが付いています。

【準備物】・研修資料 ・学習指導要領解説(特別の教科 道徳編) ・ワークシート ・使用したい教材

「特別の教科 道徳」(以下、「道徳科」)



「**評価編**」と「**授業づくり編**」では、**具体的なイメージが持てるよう**、

以下の教材を**例**に説明します。

※ 学校の実態に応じた教材(研究授業で用いる教材等)を用いることもできます。その際は、該当する学習指導要領解説のページや教科書の教師用指導書等を参考にしましょう。

教材: 「心と心のあく手」(出典: 文部科学省『私たちの道徳3・4年』)

主題: 本当の親切

内容項目: 親切、思いやり B-(6)

【ねらい】

母の話を聞いてはやとがとった行動について考えることを通して、単に手を差し伸べるだけでなく、時には温かく見守ることも思いやりの心の表れであることに気づき、相手の立場や状況をよく考えて親切にする道徳的心情を育む。

【参考】『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』(P40~41)

内容項目 B-(6) 親切、思いやり 指導の要点 ■ 第3学年及び第4学年

この段階においては、学校生活を中心として友達同士の交流が活発になるとともに、活動範囲も広がってくる。様々な人々との関わりが次第に増えていく中で、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになる。一方、ともすると他の人々の感じ方や考え方が自分たちの感じ方や考え方と同様であると思込みがちになることもこの時期の特徴と言われている。そのため、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。

指導に当たっては、相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって、相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるようにしていくことが大切である。